5―33

（上段）

一　大谷新九郎内田五左衛門義
厚御談被成候ニ付相考候処
御舩手御用達と申唱
之儀近来打絶居申ニ付
両人義御舩手御用達
相勤候様其外浜方
御用茂品ニ寄罷出候様
致させ度依之其段
深浦御役所より可申渡ニ付
石田正蔵手前へ罷出
承り候様被仰渡可然哉ニ
奉存候

右之通文政元年寅秋新九郎五左衛門
出府両人共当春已来出願之義
御隠居様より乍恐御頼之趣、則
香川次郎右衛門様森佐左衛門様ニも
御頼込被遣候得共兎角御評義

（下段）

相済不申既
鵜殿様御月番ニ付
御隠居様より大隅様被為召
藤太郎様御頼込被遣候得共
兎角森御氏御障被成専
香川様より御取持被成候義意味違
之旨被仰立候ニ付無拠香川公ニも
其余難被仰立、則諸願書
香川様より
御館へ御差戻ニ相成候事、尤
鵜殿様江私共出府中願書ハ
其侭有之候事、右ニ付
御隠居様より新九郎五左衛門引塩
なり共致し呉候様香川君江御頼ニ

相成、則卯十月十七日次郎右衛門様
御館江御越被成
御隠居様江御窺御差出被成候
御口上書如前、則其御書
米子御役所へ相廻当役所
御役所よりも同月廿五日被仰渡
其本書私宅後年之
規模と可相成品御貰申置事
依之写致置事
文政元年寅十月廿五日改ル